

(臨床研究に関する公開情報)

江南厚生病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究にカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

周術期クリニカルパスにおける PBPM 導入効果の検討

[研究責任者]

江南厚生病院 薬剤部 槌谷佳那子

[研究の概要]

当院では、外科において試験的に周術期クリニカルパスにおけるプロトコールに基づく薬物治療管理 (PBPM) を実施しています。PBPM は医師・薬剤師等が事前に作成・合意したプロトコールに基づき、薬剤師が薬学的知識・技能の活用により、医師等と協働して薬物治療を遂行することです。実施している PBPM のプロトコールはアセトアミノフェン注射液の体重に応じた減量投与および、過体重患者に対する術後感染症予防目的の抗菌薬の増量です。PBPM の実践は医師の業務負担の軽減や薬物治療の質向上に寄与することが期待されています。PBPM 導入後の医師の業務負担の変化を把握し、より使いやすい運用体制を検討することを目的として、当院の外科に所属する医師に対して 2025 年 8 月にアンケート調査を実施しました。本研究ではそのアンケート結果を解析し、PBPM 導入の有用性の評価および改善の方向性を検討します。

[研究の方法]

●対象となる方

2025 年 8 月に PBPM に関するアンケートを実施した医師
(アンケート実施時点で当院外科に所属していた常勤医師)

●利用する情報

実施したアンケート結果から下記項目を解析した。

<調査・解析項目>

外科医としての経験年数、1 週間あたりの周術期クリニカルパス入力件数、PBPM 導入により手術入院患者の業務負担が減ったか、手術入院患者の処方修正の手間が減った、手術入院患者の処方修正にかかる時間が減り、他の業務を行う時間が増えたか、手術や

外来業務中に薬剤部からの問い合わせが減少したか、薬剤師が修正した内容を術前までに承認するのは負担となっていないか、周術期クリニカルパス適用時に PBPM 対象患者か選択することが負担となっていないか、薬剤師による処方修正を安心して任せられるか

[研究期間]

実施承認日から 2025 年 12 月 31 日

[個人情報の取扱い]

この研究では、お名前、住所など、研究対象となる方の直接特定できる個人情報は使用しません。研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も研究対象となる方を特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

●研究責任者：江南厚生病院 薬剤部 槌谷佳那子

電話 0587-51-3333 FAX 0587-51-3337